



宮永岳彦記念美術館だより

2023 10月

発行/ 秦野市立 宮永岳彦記念美術館 〒257-0001 神奈川県秦野市鶴巻北 3-1-2
TEL / FAX 0463-78-9100

常設展示室

市民ギャラリーのご案内

入場無料

第 23 回カメラクラブ遊友写真展 “それぞれの世界”

9月29日(金)～10月1日(日)

10:00～17:00 (初日 13:00 から 最終日 16:00 まで)

「会員の個性と感性を大切に」をモットーに、さまざまな写真を各人のミニ個展のように展示します。

ボタニカルアート 第 13 回木の葉会展

10月24日(火)～10月29日(日)

10:00～17:00 (初日 13:00 から 最終日 16:00 まで)

ボタニカルアートは植物を植物学的な見地から正確に細密に表現し、かつ芸術性を合わせ持った絵画です。

11月の市民ギャラリー展覧会の予定

地球・絵手紙ネットグループ ネット秦野(絵手紙展)

11月15日(水)～11月19日(日)

鶴巻デジタル写真教室(写真展)

11月21日(火)～11月26日(日)

蘭の会(書道展)

11月30日(木)～12月3日(日)

※ 10月1日(日)から2024年4月分までの予約を受け付けています。



宮永の描いたクロッキー



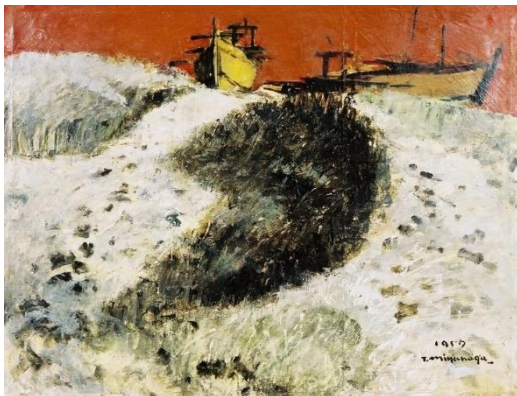
素早く描いた中に、モデルの顔や指の表情、ふわりとした髪や洋服の質感までも表現されており、宮永の卓越した素描力を窺い知ることができます。本展では他に3点裸婦のクロッキーを展示しています。

それぞれの制作過程から、完成作品を想像してみてください。



10月14日(土)から始まる新展示は、宮永岳彦の弟子である宮永辰夫氏監修のもと、油彩画を中心に初期から晩年までの作品をお楽しみいただけます。初公開となるクロッキーやデッサンの習作など珍しい展示もしておりますので、是非この機会にご来館ください。

展示作品より今月の一点 《 茅ヶ崎風景 》



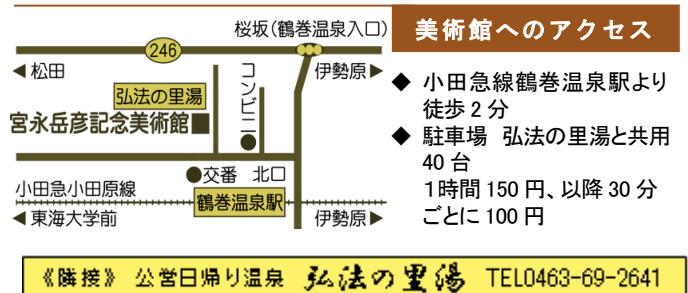
1956年までの裸婦連作から一転、宮永は風景画に挑み始めました。同時にカレンダーや挿絵、表紙画も手掛けるなど多忙な日々の中、心の安らぎは愛車プリムスに乗ってのドライブでした。秦野からほど近い箱根や湘南は宮永の癒しの場であり、当時の茅ヶ崎は今では考えられないほど荒涼だったそうです。しかしそのような風景は、よりいっそう宮永の創作意欲をかき立て、画家として新たな境地へ踏み出すきっかけとなりました。

強風に植物がなびき、吹き荒れる風の音まで聞こえてきそうなほど臨場感あふれる大胆な筆致は、画面と格闘する宮永の気迫を感じます。また、上部の朱色に塗られた背景と二隻の船の画面構成は、何とも言えぬ寂寥感が漂い、秋が終わり冬の始まりを予感させます。

宮永は、第11回二紀展に出品されたこの作品を含む他1点で、念願の二紀会委員に推挙されました。

油彩画 50F 1957年

観覧料 ・一般 300円 (弘法の里湯利用者は100円割引)
・高校生以下、障害者手帳をお持ちの方と介護の方1名は無料
開館時間 ・午前10時から午後7時 (入館時間は午後6時30分まで)



10月の休館日: 2日(月) 10日(火)～13日(金) 16日(月) 23日(月) 30日(月)
※ 10日(火)～13日(金)は展示替えの為、休館します。